
大切なこと

rouge

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大切なこと

【著者名】

N6185D

rouge

【あらすじ】

僕が得た大切なことを教訓としてみんなに伝えます。

(前書き)

はじめまして、ローラです。
初の短編小説です。
みなさんの役に立てたら嬉しいです。

つまらない生活の中で僕は唯一樂しいことがあった。

それは他愛も無い普通のことだ。

学校でぎやあぎやあ騒いで笑う。

それだけがまあ一日の大半の日課であり、樂しみでもあった。

しかし僕は一度だけその樂しみを失ったことがある。

友達と喧嘩してしまった。

そんな些細なことが原因で誰ともあまり話さなくなつた。

今更だが、僕はそのとき中学3年生の受験生だった。

残りの登校日数もあと40日を切ったところだった。

そんなころだった、ということもあつたからか、まあいいだひつと思えた。

授業中も騒ぐことなく、しっかりと授業に集中できた。

その後もほとんど何も喋らない日が続いた。

もし喋つたとしても学校が行つてゐるアンケートを集めるとそこには

「はいこれ。」

「うん。」

と言つくりこだ。

そんな時、喧嘩をする前のことを思つて出した。

とても楽しかつた。

それが日常だつた。

前のように戻りたい。

そう思えた。

そう思つた途端に喧嘩をした時よりも、もっと些細なことでも話すようになった。

それは、ここの中学校の良さを知つてもひつたためにクラスで話し合おう、と言つテー^マの学習だつた。

初めは気まずい空氣が流れたが少しづつ話すことことができた。

次の日はもう少し話すことができた。

その次の日は笑って話すことができた。

その次の日は学校が楽しく感じられた。

その次の日は休日だった。

話さなくなつてからは、学校に行きたいとは思わなかつたが、行きたいと思えた。

もう気づいたら残りの日数は21日だった。

大切な時間なのに必要な無い時間を過ごしてしまつた。

しかし、それ以上に大切なものを手に入れることができた。

だから必要のない時間ではなかつたのかもしれない。

どれだけ喧嘩しても絆は断ち切ることはできないってことが分かつた。

これから友達と喧嘩することは絶対ないだろう。

もし、したところで大切なことに気づけたから次は無駄な時間を過ごすことはないだろう。

そう。勇気を出せばいいんだ。

「『メンね。』

の一言で大切なものに気づけるんだ。

(後書き)

最後まで読んでいただき、有難うございました。
少しは教訓となつていただけたでしょうか？

「僕」が得た大切なものは友達との絆の深まりよりも、その絆を深めるための勇気だったのかも知れませんね。

これからも「○○go!」をよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6185d/>

大切なこと

2010年10月28日08時20分発行